大正四年十一月

出版第七九號

農業上より觀察したる臺灣氣象の梗概

臺灣總督府農事試驗場

430.34
4322
n.79

目次

緒言……（一）
氣候……（一）
降雨……（三）
風……（四）
濕度……（五）
日照時……（五）
海流……（六）
臺灣各地の氣象表……（六）
臺灣と熱帶各地との氣象比較……（一二）

農業部農業試驗所典藏
由國家圖書館數位化

農業上より觀察したる臺灣氣象の梗概

技師 鈴木眞吉
技手 平間惣三郎

圖書室
農業部農業試驗所

緒言

本島は地形南北に延長し、夏至線は嘉義廳の中央及澎湖島附近を横斷して温熱兩帶に跨り、一葦帶水を隔てて亞細亞大陸に隣接す。故に冬夏の季節風は本島の氣象を左右すること頗る大にして冬期は概して北東の寒風を受け、北部に降雨多く、夏期は南西の風來りて暴雨南部に多きは之を想像するに難からず。而して本島の中央山脈は臺北廳北部に起り、本島を縱斷して東西南部の分水嶺を形成し、遠く恒春の半島に終り、支脈又東西に走り本島各地の氣象を異ならしむること少なからず。即ち海拔一萬尺以上の高峰を有する中央山脈の連嶺たる三叉河一帶の山岳は實に南北雨期分布區の境界にして、氣象上より本島農耕地を區分するときは大安溪以北、新竹、桃園、臺北、宜蘭廳管内を北部とし、臺中、南投、嘉義、臺南、阿緱廳管内を南部とし、中央山脈以東花蓮港臺東廳管内を東部となすを得べし。如斯本島の氣象は亞細亞大陸によりて支配せられ本島の地勢又之に影響を及ほし、加ふるに夏季低氣壓中心の移動は本島に颶風を起し人畜を傷け作物を害することあるは世人の普く知る所なり。而して農業上關係密接なる氣象は人工を以て左右し得る事極めて少なきが故に實に農業をして之に適應せしめんがため本島特殊の氣象狀態を究め之を利用することは農業者の努むべき所なりとす。

氣温

本島の氣温は季節風に依り至大の影響を受け南部に於ては夏季南西風多く驟雨を催して炎熱を和け、冬季は降雨稀にして氣

温の低下著しからず。而して北部に於ては夏季晴快にして氣温高く冬季は霖雨續きて寒冷を覺ふること少なからずと雖も概して本島は氣温高く降雨多量にして四季緑樹鬱蒼として繁茂し、芎蕉、鳳梨、柑橘等の熱帶的美果を産すること頗る豊なり。然りと雖も後に論するが如く本島氣温の狀態各地其差異又少なからざるを以て、作物の分布も亦之によりて異ならざるを得す。元より作物生育の良否は種々の關係要素ありて單に氣温を以て之れを測る能はざるは明なりと雖も、氣温と作物との關係甚だ密接なるものあるべし。例へば本島に於ける甘蔗の發育は南部に良好にして北部に不良なるの傾向を生じ、之れを茶、稻、甘藷等に比し遙かに高温に好適すと云ふを得べく、又本島に於ける茶樹栽培は温暖にして濕潤なる北部高臺の傾斜地方に盛なるが如き、氣象の影響大なるを知るに足るべし。更に水稻、甘藷の如きは其適温度の極限廣くして發育の狀態南北兩部に於て著しき差異あるを見ざるに、大小麥、馬鈴薯の如く寒地に於ける夏作は高温なる本島に於て晩秋之を播種して初めて栽培の目的を達するものあり。斯の如く作物は其の種類により高温を要するものあり或は低温に非らざれば良好なる發育を遂けざるものあり。其の他病蟲害の如き或は養蜂集蜜の如き、或は土壤の化學的變化の如き、氣温の高低に影響せらるゝもの少なからざるべし。尚は玆に附記すべきは地温の變化なりとす。地皮及淺き地中温度の最高は夏季に起り最低は冬季に在りて氣温の高低と略は同時期なり。而して地温は一般に氣温より高きが故に冬季寒冷の候に於ても作物根或は播種せる子實の如きは比較的高温に浴するものと云ふべし。

既往十七年間に於ける本島各地全年平均氣温は何れの地も二十一度（華氏六十九度八以下括孤内の數字を華氏とす）以上にして、臺北に於ける二十一度六（七十度九）乃至恒春に於ける二十四度四（七十五度九）の間にあり。而して夏冬の氣温著しき較差なく冬季より直に夏期に入る。而して全島を通して夏期に於ける各月平均氣温は四月に二十度（六十八度）以上に昇り、之より次第に上昇す。六月より九月に至る期間は酷暑の季節にして、各月平均氣温は二十六度（七十九度）より二十八度（八十二度）に及ぶ。此の期間は南北氣温の差最も尠なき時にして、各月平均最高氣温は三十度（八十六度）以上に昇り、全月に亘りて此の高温を持續し、最高氣温は三十五度（九十五度）にして稀に三十七度（九十八度）に昇ることあり。既往十七年間に於ける最高の極は明治三十六年六月十六日臺東に於ける三十七度九（百度二）なりとす。臺東市街は東海岸に位し、往々乾燥せる熱風の襲來を受け。斯の如き高温に達することあるも僅かに五六時間持續せるに過ぎず。其の他臺北、臺中に於て曾て三十七度（九十八度六）を示せることあり。夏季に於ては南北氣温の差頗る尠なしと雖も、冬季に至るに從ひ次第に増加し、二月に至り其差最も多し。二月は全島を通して最寒の時期にして平均氣温は恒春に於て二十度一（六十八度二）臺北に於て十四度四（五十七度九）を示し、其差五度七（十度三）に及ぶ。既往

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

十七年間に於ける最低氷點下一度（三十度二）は明治三十四年二月十三日臺中に於て僅かに一回觀測せしことあるも斯の如き現象は中部以北の地に限られ、臺南地方に於ける最低の極は僅に三度（三十七度四）に下降せることあるのみなり。而して一般に北部最低氣温は五度（四十一度）以上にして恒春地方は九度八（四十九度六）を下らず。今試に臺北の氣温を南隣の馬尼刺に比すれば緯度に於て十度の差ありと雖も、其低度なること同日の論にあらず。又之を東京に比すれば五月は既に東京の酷暑時期たる七八月に同しきを知るなり。

降　雨

降雨も又は季節風及地勢によりて其分布一樣ならず。卽ち本島極北部沿岸基隆一帶の地最高雨量を示し、南西部沿岸卽ち臺南地方及澎湖島に於て最少なりとす。基隆全年の總雨量は既往十七箇年間の平均三千四百九十三粍五にして、同港より南方約五哩餘の暖々街附近の高臺に位せる火燒寮は一年間の雨量實に七千三百三十八粍卽ち約二丈四尺に及び、極東亞細亞に於ける最多雨の地たり臺北及恒春は基隆に亞きて多く、最も尠き澎湖島は僅に一千零十三粍四にして之を基隆に比すれば三分の一に過ぎず。臺南は稍々多く一千七百粍にして。尙は南部山岳地方は三千五百粍に達し、其最も多きは阿里山に於て三千八百二十粍を側る。次ぎに各月の雨量を比較するに、極北部の基隆は冬季に多く夏季に少なし。南部地方は之に反し夏季に多く冬季に尠し。殊に南部地方は五月乃至八月の四箇月著しく多量にして、九月乃至四月の八箇月は甚だ少なし。試に臺南の雨量を檢するに五月乃至八月の四箇月間に於ける總量は殘る八箇月の總量に對し約四倍以上に達す如斯本島降雨の分布は土地及季節に從て著しく中庸を失するを知り得べし。

本島極北部は大屯の山脈海岸に接して屹立し、中央山脈は南北に縱貫し、其間連嶺高蜂突屹し、臺中廳以南一帶の耕地は恰も後に山岳峰巒を負ひ、障壁圍繞の裡に在るの觀あり。而して例年十一月より三月に至る期間は多濕なる北東季節風北部一帶の連嶺に達して雲霧を起し、宜蘭基隆地方に多量の雨を降らし、臺北、桃園、新竹廳下一帶の地は雨量多からざるも霖雨月餘に及び所謂北部の雨期をなす。而して大安溪以南卽ち南部地方及臺東、花蓮港一帶の地は乾燥せる北東季節風を受け、降雨尠く往々旱魃の害を被ることあり。之れに反し夏季に於て南西季節風は温暖濕潤なる氣流となり、本島中央山脈に衝り、冷却凝結して降雨を催し、驟雨頻に至り所謂南部の雨期となり、雷雨あり颶風あり一日にして能く數百粍の降雨を齎すこと少なからず。夏季三四箇月の間に降雨量著しく多きは斯の如き豪雨あるが爲なり。此の季に於ける北部地方は一般に乾燥期と稱せらるゝと雖も、時々驟雨ありて夏季の雨量は却て冬季に優るを常とす。而して本島東部花蓮港臺東一帶の地を通過する南西季節風は中央山脈を越へ、旣に乾燥せる氣流となり降雨を來すこと少なし。

夏季降雨の氣温に及ぼす影響は農事上特筆するの要を認めずと雖も、晚秋及春季に於ける降雨は往々氣温を低下せしめ幼若なる農作物を害すること稀なりとせず。殊に本島第一期作水稻栽培に於て苗代期及挿秧後降雨のため冷氣を催し、作物の發育

農業部農業試驗所

を阻害するは農家の熟知する所なり。

冬夏季節風の包含する降雨水蒸氣は本島山岳に接し冷却凝結して普く本島を潤すものにして、實に降雨は海洋なる水源地より運水の天然機關をなすと云ふを得べく、土壤の濕分及灌漑水の如き皆降雨の恩惠に浴するものなり。故に若し本島にして降雨なくんば本島に農業なしと云ふも過言にあらざるべし。然りと雖も豐富なる本島の降雨は又本島農業の發達を阻害すること少なからざるものあり之降雨量分布の適當ならざるによるなり。

夏季に於ける南部の雨期及冬季に於ける北部の雨期の如きは雨量過多にして作物の生育を妨げ、排水良好ならざる地は被害著しく、宜蘭四圍堡水田の如き秋冬の降雨多く田面尺餘の水を湛へ、晚稻の栽培を不可能ならしむと云ふ。特に南部雨期に於ては豪雨甚だしく、河川氾濫し或は其流域を變し、農耕地を荒廢せしむるが如き主として降雨過多に起因するものとす。而して乾燥期に於ては降雨極めて稀にして土壤其の濕分を失ひ、旱魃の憂少しとせず。本島南部嘉義臺南地方に於ける約十萬甲步の看天田の如き、地位灌漑の便を缺き冬季乾燥度に過ぎ、僅かに初夏の降雨を待て耕作を行ふが如く、極めて原始的農業狀態を脫する能ざるものあり。

斯の如く本島に於ける降雨量分配の狀態は農業上中庸を得ざるのみならず降雨期の分布も亦農事者の注意を要するもの少なからず、例へば南部地方夏季に於ける降雨は概して甘蔗の發育に對し好果あるも、收穫期に達せる甘藷は爲めに土中に腐敗するあり。或は北部晚秋に於ける降雨は水稻第二期作の收穫乾燥を困難ならしめ收量を減し、米質を損することあるが如き本島降雨の特殊狀態は農業者の豫め熟知し置くべき要件なりとす。

風

前に述べたる如く本島の氣流は冬季北東の季節風を主とし、夏季南西の季節風多きを常とす、故に本島一般の風向を代表するものは地勢の影響少き澎湖島を以て著明なりとす。概言すれば九月乃至翌年五月の間は氣壓北部に高くして南部に低く、氣壓傾度は冬季急峻にして十一月乃至翌年二月の間に甚だしく、五月乃至八月は最も緩漫なりとす。故に九月中旬より北東の季節風愈々募り近海風波荒く、十一月は其頂點に達し翌年三月より漸次風力減殺し、四月乃至六月の間は近海最も靜穩の時期なりとす。而して夏季は特に危險なる暴風襲來するに非ざれば、一般に南西季節風多くして其力極めて微弱なり。要するに本島に於ては九月乃至翌年三月の七箇月間は北乃至東の風向多くして且つ風力强し、六月乃至八月の三箇月間は南方の風多きを占むるも風力弱し。

風向及風力は農業上顧慮すべき事少からず。冬季北東の季節風は其風力甚だしく强大なりと稱するを得ざるも、寒冷なる空氣を運び、植物を動搖せしめ其發育を害することあり。又南部乾燥期に於ける季節風は塵埃を天に擧げ草木之れに蔽はれ、桑葉の被害の如き養蠶業者の不便尠なからざるべく、殊に夏季の暴風の如き其害實に慘憺たるものあり。

一般に風は海濱地方に强く內陸に弱きは理の正に然るべき所にして、本島各地に於ても風力最も强きは澎湖島なり。全年の平均旣に强風に達し十米二を示し、恒春之れに亞き六米三なり。

農業部農業試驗所

最も風力弱きは臺中街にして僅かに二米九に過ぎず。而して本島の農耕上恐るべき颶風（毎秒三十九米以上）は主として夏秋の候に起ると雖も、獨り澎湖島は冬季に於ても亦之れを見る。既往十七年間に於ける全年平均颶風日數の最も多きは澎湖島にして、四、一日之に次くを恒春及基隆の一、三日とし、最も少きは臺中にして僅かに〇、一日に過ぎず。

凡そ風力の強弱は各地の地勢に左右せらるゝこと多く、臺中街の如きは風力最も弱しと雖も、鹿港二林一帶の海岸地方に至れば砂丘連なり、荒蕪の地を形成し冬季北東の風頗る強大なるを示し、水稻甘蔗等其影響を被むること少なからず。反之南投廳埔里社の如きは四位山を繞らし、風力微弱にして暴風の害を免るゝことありと云ふ。されば本島の農業者は氣溫降雨のみならず、風の方向強弱を究め或は地勢を利用し或は人工的防風の道を講し、或は抵抗力強き作物を選定する等氣象要素に對し適當の注意を怠るべからず。

濕度

濕度は水蒸氣最大張力と現在張力との比にして、空氣乾燥の割合を示すに止る。全年平均によれば北部は冬季濕度大にして夏季は小なり。南部は之れに反し夏季大にして冬季小なり。全島を通して最多濕なるは基隆及澎湖島にして、全年平均八十三、四度なり。最乾は臺東の七十七度なり。更に各月に就て見るに臺北は一月及三月に於て八十五度に達し、基隆は臺北に比し僅かに濕度高く、一月、三月、四月、五月多濕なり。北部に於ける寡濕の時期は夏秋の候にして臺北七月七十七度を以て最低とし、基隆七月乃至十一月八十二、三度なり。而して臺南の六、七、八月は多濕にして八十三度十月乃至翌年四月の間は寡濕にして、七十七、八度なり。花蓮港及臺東も濕度の變移稍々南部地方に類す。只だ臺東の濕度各月を通じて低く夏季の最高濕度は臺北の最低濕度と伯仲の間にあるを異例とす。斯の如く濕度分布の狀態南北相反するの傾向あるは降雨の多少によるものにして、本島は內地に比し一般に多濕なるは言を待たず。

濕度の土壤に對する作用及作物生育に及ぼす影響は之を詳にするを得ず。濕度高くして土壤水分の蒸發を抑壓し、或は土壤中の化學的作用を增進せしめ或は溫度の上昇に伴ふて蠶兒の疾病を誘因するは明なりと雖も、本島に於けるが如く降雨の多少は濕度高低の主要原因なりとせば濕度に關し農業上茲に特に論ずべきものなかるべし。只た澎湖島の如く降雨少なくして濕度高き地方に於ては土壤及植物より水分の飛散を防くの效あるは之れを察するに難からず。又種子貯藏の如き乾燥せる空氣を可とするものは本島の如き多濕の地に於て特殊の工夫を要することあるべし。

日照時

本島に於ける日照時數の多寡は雲量の多少に左右せらるゝこと大なるを以て、北部日照時の甚しく尠なきは自然の數なりとす。卽ち全島を通して最少なるは基隆にして、一箇年間千五百八十六時間、最も多きは臺南にして二千六百〇五時間なり。之れを晝間時數に比すれば基隆は僅かに三十六%にして、臺南は五十九%を示し殆んど前者に二倍す。又各月平均に就て見れば

農業部農業試驗所

基隆、臺北、澎湖島、花蓮港及臺東は冬春に尠なく、夏秋に著しく多し。倘は臺中、臺南、恒春も冬春に少なくして夏秋に多く、稍其軌を一にすと雖も、其の差北部の如く顯著ならず。而して南部に於ける日照時數の割合は北部に比し常に高し。之れ南部に於ては冬季乾燥期にして降雨少なきのみならず、夏季降雨の候と雖も天氣陰鬱數日連續するが如きこと甚だ稀にして、短時間の驟雨多きを以てなり。故に之を北部雨期に於ける霖雨積日太陽を見ること稀なるに比すれば其趣を異にす。

右に述べたる如く日照に關する調査材料は單に其時數の多寡を示すに止まり、日光の强弱は未だ之を測定せしものなしと雖も、本島の如く低緯度の地に於ては日光輻射の角度大にして光力の强烈なるは凝を挾むの餘地なかるべし。一般農作物の發育は日光の供給を要するは明なりと雖も之を仔細に觀察するときは、日照時長く光力强きを要するものと否ざるものとあるべし。彼の樹間に栽培せらる、鳳梨の如き或は深山樹陰に生育する蘭類の如き、或は葉綠素を變質して葉紅素を生成する植物の如きは、强光を厭ふに非らざるかを推想せしむ。又濕度高き冬秋の候に發育する蔬菜類にして其組織鞏固品質優良ならざるが如き主として光力の强きに失するに非らざるか記して參考に供す。

海　流

地圖を檢するに本島近海に二ケの潮流あり、一は北米合衆國加州及「メキシコ」沿岸を南下して北部赤道海流（平均海水溫度約華氏八十度）となり、西漸して「マーシャル」及「マリヤン」群島を横ぎり、比津賓諸島の東北沿岸を洗ひ、北上して本島を圍繞し、遂に北東に進み黑潮となるものにして、他は黃海より南進し安南近海を經て馬來半島に終る寒流にして、臺灣海峽を通過すると雖も支那沿岸に接して流る、を以て、本島と同緯度に位する對岸地方は其氣溫低しと云ふ。

凡そ海流は陸地氣溫を左右すること大なるを常とするも、本島の如く地位溫熱兩帶に跨り四季氣溫高き地に於ては暖流の影響寒地に比し著しからざるべし。然りと雖も冬夏雨季に於ける季節風は共に該暖流を通過するを以て愈濕分に富み本島の降雨量をして多大ならしむる所以なるべし。

臺灣各地の氣象表

(1) 平均氣温 (攝氏)

	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
臺北	一五・五	一四・四	一六・九	二〇・六	二四・〇	二六・六	二八・〇	二七・七	二六・二	二三・〇	一九・六	一六・七	二一・六
基隆	一六・一	一四・九	一六・六	二〇・〇	二三・三	二六・二	二七・七	二七・五	二六・三	二三・二	二〇・〇	一七・〇	二一・六
臺中	一六・〇	一五・二	一八・二	二一・九	二五・〇	二六・六	二七・五	二七・二	二六・三	二三・七	二〇・三	一七・二	二二・一
臺南	一七・三	一七・七	一九・一	二三・一	二三・九	二六・四	二七・〇	二六・六	二五・八	二二・六	二〇・八	一八・九	二二・三
花蓮港	一七・二	一六・五	一九・七	二三・四	二六・〇	二七・二	二七・七	二七・四	二七・一	二四・八	二一・四	一八・三	二三・一
臺東	一九・二	一八・六	二〇・八	二三・四	二五・一	二六・八	二七・四	二七・一	二六・三	二四・三	二二・〇	一九・九	二三・四
恒春	二〇・六	二〇・一	二二・三	二四・七	二六・四	二七・二	二七・五	二七・一	二六・七	二五・二	二三・二	二一・四	二四・四
澎湖島	一六・四	一五・三	一八・二	二一・九	二四・八	二六・八	二七・八	二七・七	二六・九	二四・五	二一・三	一八・一	二二・五

(2) 平均最高氣温 (攝氏)

	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
臺北	一九・二	一七・九	二〇・七	二四・八	二八・三	三一・三	三二・九	三二・四	三〇・七	二七・一	二三・二	二〇・四	二五・八
基隆	一八・六	一七・四	一九・三	二三・〇	二六・三	三〇・〇	三一・四	三一・一	二九・四	二五・八	二二・三	一九・五	二四・五
臺中	二一・八	二〇・六	二三・三	二六・八	二九・六	三一・一	三二・〇	三一・八	三一・三	二九・四	二六・一	二二・九	二七・二
臺南	二〇・六	二一・三	二二・四	二五・七	二七・四	三〇・一	三〇・九	三〇・六	二九・五	二六・五	二四・五	二二・〇	二六・〇
花蓮港	二三・六	二三・一	二五・八	二九・〇	三〇・八	三一・四	三二・〇	三一・六	三二・〇	三〇・四	二七・五	二四・六	二八・五
臺東	二三・五	二二・八	二四・九	二七・六	二九・一	三〇・九	三一・三	三一・一	三〇・四	二八・四	二六・〇	二三・九	二七・五
恒春	二四・二	二四・一	二六・五	二八・九	三〇・三	三〇・五	三〇・八	三〇・四	三〇・四	二八・六	二六・三	二三・五	二八・〇
澎湖島	一八・七	一七・八	二〇・八	二四・五	二七・五	二九・五	三〇・四	三〇・四	二九・七	二七・二	二三・六	二〇・三	二五・〇

農業部農業試驗所 1895 AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE

(3) 平均最低氣温（攝氏）

	臺北	基隆	臺中	花蓮港	臺南	臺東	恒春	澎湖島
一月	一二・八	一三・六	一二・一	一四・四	一三・二	一六・一	一七・九	一四・九
二月	一一・八	一二・六	一一・四	一四・五	一二・三	一五・四	一七・二	一三・六
三月	一四・二	一四・四	一四・七	一六・二	一五・五	一七・六	一九・五	一六・三
四月	一七・五	一七・六	一八・三	一八・八	一九・一	一九・九	二一・八	二〇・〇
五月	二〇・五	二〇・六	二一・四	二〇・九	二二・二	二一・九	二三・六	二二・九
六月	二三・〇	二三・三	二三・二	二二・九	二三・九	二三・三	二四・八	二四・九
七月	二四・一	二四・六	二三・八	二三・三	二四・四	二三・九	二四・八	二五・八
八月	二四・一	二四・六	二三・七	二三・一	二四・二	二三・七	二四・六	二五・七
九月	二二・八	二三・五	二二・七	二二・六	二三・五	二三・二	二四・一	二五・二
十月	一九・九	二〇・九	一九・八	一九・四	二〇・七	二一・三	二二・九	二三・〇
十一月	一六・九	一七・九	一六・三	一七・六	一七・三	一九・〇	二一・一	一九・九
十二月	一三・九	一四・八	一三・一	一六・〇	一四・三	一七・〇	一九・一	一六・七
年	一八・五	一九・〇	一八・四	一九・一	一九・二	二〇・二	二一・八	二〇・七

(4) 最高氣温（攝氏）

	臺北	基隆	臺中	花蓮港	臺南	臺東	恒春	澎湖島
一月	二九・二	二八・一	二九・八	二六・三	三二・四	三一・八	二九・八	二七・八
二月	二九・四	二七・〇	三一・一	二七・〇	三一・三	三三・五	三一・一	二七・九
三月	三二・六	二九・一	三二・三	二八・四	三二・〇	三五・九	三一・七	三〇・八
四月	三四・八	三二・六	三三・五	二九・七	三四・三	三三・九	三二・五	三〇・八
五月	三六・五	三三・四	三四・六	三一・七	三五・一	三五・二	三四・四	三二・〇
六月	三七・一	三五・九	三五・九	三四・四	三四・六	三七・九	三三・五	三三・三
七月	三六・五	三五・七	三六・五	三三・三	三六・九	三七・二	三三・四	三三・〇
八月	三七・〇	三五・三	三七・二	三二・八	三六・六	三五・八	三三・〇	三三・三
九月	三五・一	三五・二	三五・〇	三一・九	三六・六	三四・四	三二・七	三三・五
十月	三三・七	三二・三	三四・九	三〇・一	三四・七	三一・八	三二・〇	三三・一
十一月	三一・八	二九・四	三二・一	二八・三	二五・二	三一・三	三一・四	三一・〇
十二月	二九・六	二七・六	三〇・〇	二六・一	三〇・六	三〇・五	三〇・三	二七・五
年	三七・一	三五・九	三七・二	三四・四	三六・九	三七・九	三四・四	三三・五

(5) 最低氣温（攝氏）

	臺北	基隆	臺中	花蓮港	臺南	臺東	恒春	澎湖島
一月	四・六	七・六	一・六	一〇・四	四・三	一〇・一	一〇・二	九・七
二月	(一)〇・二	三・〇	(一)一・〇	一〇・六	三・〇	八・二	九・八	七・三
三月	四・二	七・九	五・一	一〇・六	五・七	一〇・二	一一・五	九・八
四月	八・一	一〇・三	九・九	一三・六	一一・七	一三・五	一五・四	一三・六
五月	一一・四	一四・五	一五・〇	一七・二	一五・二	一六・七	一八・七	一六・八
六月	一六・八	一七・八	一六・八	一九・一	一九・六	一八・九	一八・六	一九・八
七月	一九・五	二〇・九	二一・一	二一・二	二一・四	二〇・五	二〇・九	二一・八
八月	一九・七	二一・五	二一・〇	二一・一	二一・八	二〇・九	一九・五	二二・〇
九月	一三・五	一五・八	一四・四	一九・二	一五・四	一八・五	一八・七	一九・二
十月	一一・一	一四・四	一一・五	一四・八	一四・六	一六・三	一八・三	一九・三
十一月	六・八	九・四	六・九	一二・五	八・六	一三・〇	一二・七	一三・〇
十二月	五・一	八・一	四・三	九・五	六・一	一一・四	一三・〇	九・五
年	(一)〇・二	三・〇	(一)一・〇	九・五	三・〇	八・二	九・八	七・三

(6) 氣温最大較差（攝氏）

	臺北	基隆	臺中	花蓮港	臺南	臺東	恒春	澎湖島
一月	一六・六	一三・四	二〇・三	一〇・五	一七・五	一四・八	一五・二	九・七
二月	一六・五	一四・四	一九・七	一一・八	一七・七	一三・九	一五・一	一一・六
三月	一六・八	一三・二	一九・七	一一・七	一六・四	一六・五	一三・六	一二・八
四月	一六・九	一三・二	一四・二	一〇・六	一七・〇	一三・二	一二・五	九・八
五月	一五・八	一二・七	一三・六	一〇・〇	一五・〇	一二・四	一一・六	八・七
六月	一四・〇	一三・一	一二・九	一一・四	一一・六	一六・四	九・二	七・五
七月	一三・六	一〇・九	一二・六	九・八	一四・二	一一・七	九・七	七・二
八月	一三・〇	一二・〇	一一・八	一〇・四	一二・〇	一一・四	九・五	八・〇
九月	一四・六	一〇・八	一四・六	九・三	一五・五	一〇・八	一一・四	七・九
十月	一四・四	一一・五	一六・〇	一一・七	一五・五	一一・三	一二・一	九・二
十一月	一六・六	一〇・〇	一九・一	一二・九	一六・五	一一・一	一〇・九	九・一
十二月	一七・三	一一・八	二〇・四	一一・二	一六・七	一一・三	一三・八	八・七
年	一七・三	一四・四	二〇・四	一二・九	一七・九	一六・五	一五・二	一二・八

(7) 最高氣温華氏九十度以上の日數

	臺北	基隆	臺中	花蓮港	臺南	臺東	恒春	澎湖島
一月	—	—	—	—	〇・一	—	—	—
二月	—	—	—	—	—	〇・一	—	—
三月	〇・一	—	〇・一	—	—	〇・二	—	—
四月	〇・六	〇・一	一・一	—	一・九	〇・八	〇・五	—
五月	三・九	〇・三	三・四	—	八・一	一・九	四・一	—
六月	一五・五	六・四	一一・五	一・〇	一一・五	七・二	四・五	一・〇
七月	二四・二	一一・一	一七・〇	四・三	一七・〇	八・四	三・五	一・五
八月	二〇・七	八・八	一四・五	二・〇	一二・五	七・七	二・六	二・三
九月	一〇・七	二・二	八・八	—	一五・六	二・八	一・三	一・四
十月	一・二	〇・一	二・六	—	四・八	—	—	〇・一
十一月	—	—	—	—	〇・六	—	—	—
十二月	—	—	—	—	—	—	—	—
年	七六・九	二九・〇	五九・〇	七・三	七二・一	二九・一	一六・五	六・三

(8) 最低氣温攝氏十度以下の日數

	臺北	基隆	臺中	花蓮港	臺南	臺東	恒春	澎湖島
一月	三・八	一・六	六・六	—	三・一	〇・三	—	〇・一
二月	六・八	四・一	七・九	—	五・一	—	〇・一	一・五
三月	二・一	一・〇	一・四	—	〇・九	—	—	〇・一
四月	〇・一	—	〇・一	—	—	—	—	—
五月	—	—	—	—	—	—	—	—
六月	—	—	—	—	—	—	—	—
七月	—	—	—	—	—	—	—	—
八月	—	—	—	—	—	—	—	—
九月	—	—	—	—	—	—	—	—
十月	—	—	—	—	—	—	—	—
十一月	〇・七	〇・一	〇・七	—	〇・一	—	—	—
十二月	二・八	〇・九	四・九	〇・三	二・一	—	—	〇・一
年	一六・三	七・七	二一・六	〇・三	一一・三	〇・三	〇・一	一・八

(9) 平均地皮温度（攝氏）

	臺北	基隆	臺中	花蓮港	臺南	臺東	恒春	澎湖島
一月	一七・一	—	一八・四	—	二一・一	二一・四	二二・一	一七・八
二月	一六・三	—	一八・八	—	二一・五	二一・二	二二・七	一七・四
三月	一八・七	—	二一・一	—	二五・一	二四・二	二九・一	二〇・三
四月	二二・六	—	二五・二	—	二九・三	二七・六	二九・七	二四・四
五月	二六・三	—	二八・四	—	三一・四	二九・四	三〇・七	二八・四
六月	二九・一	—	三〇・〇	—	三二・〇	三二・七	三〇・五	三〇・八
七月	三〇・七	—	三一・〇	—	三二・五	三三・二	三〇・三	三一・九
八月	三〇・二	—	三〇・八	—	三一・八	三二・一	二六・七	三一・六
九月	二八・七	—	三〇・一	—	三一・七	三〇・〇	二九・〇	三〇・四
十月	二四・九	—	二七・一	—	二九・九	二六・九	二六・八	二六・八
十一月	二一・一	—	二二・八	—	二六・二	二三・九	二四・五	二二・七
十二月	一八・一	—	一九・五	—	二二・六	二二・〇	二二・七	一九・〇
年	二三・七	—	二五・三	—	二七・九	二七・〇	二七・一	二五・一

(10) 平均地中（半米突）温度（攝氏）

	臺北	基隆	臺中	花蓮港	臺南	臺東	恒春	澎湖島
一月	一八・四	—	二〇・〇	—	二一・七	二二・五	二二・四	—
二月	一七・二	—	一九・三	—	二一・四	二二・一	二二・四	—
三月	一八・七	—	二一・〇	—	二三・七	二三・七	二四・六	—
四月	二一・五	—	二四・〇	—	二七・〇	二五・八	二七・二	—
五月	二四・八	—	二七・〇	—	二九・二	二七・八	二八・九	—
六月	二七・三	—	二八・三	—	二九・八	二九・六	二九・一	—
七月	二九・一	—	二九・六	—	三〇・五	三〇・六	二九・三	—
八月	二九・二	—	二九・八	—	三〇・三	三〇・四	二八・八	—
九月	二八・四	—	二九・四	—	三〇・四	二九・三	二八・四	—
十月	二五・七	—	二七・四	—	二九・一	二七・一	二六・六	—
十一月	二二・八	—	二四・四	—	二六・四	二四・九	二四・八	—
十二月	一九・九	—	二一・四	—	二三・三	二三・四	二三・〇	—
年	二三・六	—	二五・一	—	二六・九	一六・四	一六・三	—

(11) 温度（百分率）

	臺北	基隆	臺中	花蓮港	臺南	臺東	恒春	澎湖島
一月	八五	八六	八二	八〇	七九	七三	七五	八三
二月	八四	八四	八一	七九	七八	七三	七五	八二
三月	八五	八八	八三	八三	七九	七七	七六	八四
四月	八三	八七	八二	八三	七七	七九	七八	八四
五月	八一	八六	八二	八六	八〇	八一	七九	八六
六月	八〇	八四	八二	八四	八三	八一	八四	八七
七月	七七	八二	八一	八二	八三	八〇	八四	八六
八月	七八	八三	八二	八三	八三	八一	八六	八六
九月	八〇	八三	八一	八四	八一	八〇	八二	八三
十月	八一	八二	七九	七八	七八	七八	七八	七八
十一月	八二	八二	七九	七七	七七	七四	七五	七八
十二月	八三	八四	八〇	八〇	七八	七三	七三	八〇
年	八二	八四	八一	八二	八〇	七七	七九	八三

(12) 平均風速度（毎秒米）

	臺北	基隆	臺中	花蓮港	臺南	臺東	恒春	澎湖島
一月	四・九	六・一	三・六	四・九	五・四	五・八	七・五	一三・一
二月	四・八	六・一	三・六	四・九	五・七	六・〇	七・二	一二・九
三月	五・二	五・三	三・二	四・二	五・二	五・三	六・五	一〇・七
四月	四・八	四・四	二・七	四・〇	四・三	四・五	五・五	八・六
五月	四・三	三・九	二・三	三・二	三・七	四・一	五・一	七・〇
六月	三・四	三・七	二・七	三・五	三・九	三・七	四・七	六・六
七月	三・五	四・一	二・五	三・七	三・八	三・七	四・七	五・八
八月	四・三	四・六	二・五	三・五	三・九	三・八	四・六	六・四
九月	四・五	五・二	二・五	四・四	三・七	四・三	四・七	八・四
十月	五・六	五・六	二・九	四・五	三・八	五・四	六・八	一三・〇
十一月	五・九	六・四	三・三	五・二	四・七	六・〇	九・〇	一四・九
十二月	五・四	六・二	三・五	五・六	五・三	六・〇	九・二	一四・五
年	四・七	五・一	二・九	四・三	四・四	四・九	六・三	一〇・二

(13) 最高風速度（毎秒米）

	臺北		基隆		臺中		花蓮港		臺南		臺東		恒春		澎湖島	
一月	E	一五・五	N	二三・九	N	一五・〇	N	一九・六	N	一八・六	NE	一九・〇	NE	二八・三	NE	二九・二
二月	ENE	一五・五	S.NNW	二〇・六	NNW	二三・二	NE	一八・三	N	一八・二	NE	二三・七	NE	二七・三	NE	三一・八
三月	ENE	一六・四	NNW	二二・四	N	一六・九	NNE	一六・一	NE	二〇・〇	S	一九・七	NE	二五・四	N	三一・五
四月	E	一六・〇	NNW	二二・九	N	一二・七	NNE	一五・一	N	一七・九	NE	一九・〇	NE	二四・四	NE	二六・二
五月	W	一八・八	NNW	二一・四	N	一六・三	N	一四・四	SSE	一六・四	SSW	二二・八	S	三八・三	SE	二五・五
六月	ESE	一九・八	NNW	三一・八	NW	一八・三	SE	一三・六	NW	三五・〇	SSW	二一・六	E	四〇・三	SW	三九・二
七月	ESE	二一・一	N	二九・六	N	一八・五	NNE	一七・六	W	一九・九	SSW	二四・九	E	二三・七	SSE	三三・〇
八月	E	四四・七	NW	五〇・七	NNE	二三・三	S	一五・一	SSE	五四・五	S	三八・四	WNW	五六・八	N	四八・二
九月	ESE	四三・七	N	四八・一	N	三八・〇	N	四〇・八	NNW	三八・二	SSW	二八・九	WNW	四二・四	N	五六・四
十月	ESE	三三・一	N	三四・七	N	二六・八	N	一九・二	SSW	二六・五	SSE	四六・三	NNE	三一・二	NE	四九・〇
十一月	ESE	一六・二	NNW	二九・〇	N	二〇・一	N	一九・四	N	二〇・〇	NE	二三・〇	NE	三二・一	NE	三二・七
十二月	ENE	一四・七	NNW	三一・一	N	二〇・〇	NE	二五・七	N	二四・三	NE	二三・七	NE	三一・三	NE	三五・一
年	E	四四・七	NW	五〇・七	N	三八・〇	N	四〇・八	SSE	五四・五	SSE	四六・三	WNW	五六・八	N	五六・四

(14) 臺北に於ける風向百分率

	N	NE	E	SE	S	SW	W	NW	無風
一月	三	一六	五三	四	三	四	五	八	五
二月	三	一五	五〇	五	四	四	五	一〇	五
三月	四	一六	四五	四	三	四	六	一二	五
四月	五	一七	四三	五	三	三	六	一二	五
五月	五	一六	四〇	九	五	四	七	九	六
六月	五	九	二三	一二	八	九	一五	一〇	七
七月	六	九	二〇	一五	一〇	一一	一三	一〇	五
八月	五	一二	二五	一六	一〇	八	一〇	一〇	四
九月	四	二二	三八	一一	七	四	四	七	四
十月	二	二二	五六	七	三	二	二	三	三
十一月	二	二一	六一	四	二	二	二	三	三
十二月	二	二〇	五七	四	二	二	三	五	四
年	四	一六	四三	八	五	五	六	八	五

(15) 基隆に於ける風向百分率

	N	NE	E	SE	S	SW	W	NW	無風
一月	二六	二九	一六	四	七	八	二	六	一
二月	二八	二八	一三	五	六	九	二	八	二
三月	二五	二五	一四	五	八	九	三	一一	二
四月	二三	二三	一六	六	一〇	九	三	八	四
五月	一三	二〇	二〇	八	一三	一二	三	六	四
六月	一〇	一二	一六	九	一七	二三	四	六	四
七月	八	八	一六	一三	一九	二三	四	五	四
八月	九	一〇	一九	一三	一七	一九	三	六	四
九月	一五	二〇	二三	一一	一一	九	二	五	四
十月	一五	三八	二三	六	六	四	一	三	三
十一月	一九	三七	二三	六	五	四	一	三	二
十二月	二一	三五	一九	五	六	六	一	五	二
年	一七	二三	一八	八	一〇	一一	二	六	三

(16) 臺中に於ける風向百分率

	N	NE	E	SE	S	SW	W	NW	無風
一月	五六	九	三	一	一	二	三	八	一七
二月	五八	七	二	一	一	二	三	一〇	一六
三月	五〇	六	二	一	三	三	六	一三	一六
四月	三九	六	三	二	六	六	九	一三	一七
五月	二四	五	四	五	一〇	九	一〇	一三	一九
六月	一一	三	四	九	二四	一七	九	七	一六
七月	一一	四	六	九	二〇	一三	一〇	一〇	一六
八月	一一	六	七	一〇	一七	一二	九	一一	一六
九月	三〇	八	七	五	七	五	七	一三	一八
十月	四九	九	三	一	二	三	五	一〇	一七
十一月	五四	一二	二	一	一	一	三	九	一七
十二月	六〇	一〇	二	一	一	一	二	六	一五
年	三七	七	四	四	八	六	六	一〇	一七

(17) 花蓮港に於ける風向百分率

	N	NE	E	SE	S	SW	W	NW	無風
一月	二一	二九	四	一	二	一〇	二一	九	二
二月	二三	二七	四	四	四	一一	一六	一二	一
三月	三一	二三	五	五	四	九	一四	一〇	〇
四月	二三	一八	六	一一	八	一一	一九	五	一
五月	二四	二一	七	六	四	八	一六	一二	三
六月	一四	一三	一〇	一五	六	一四	一八	一〇	二
七月	八	六	一四	一六	九	一七	一七	一〇	二
八月	八	九	一一	一三	八	二〇	一九	一二	一
九月	一九	一七	八	六	一二	一三	一五	一〇	一
十月	二六	二七	五	二	三	一〇	一五	一一	〇
十一月	二六	二六	四	三	三	一六	一三	九	〇
十二月	二一	二三	二	二	三	一八	二一	九	一
年	二〇	二〇	七	七	五	一三	一六	一〇	一

(18) 臺南に於ける風向百分率

	N	NE	E	SE	S	SW	W	NW	無風
一月	六八	一四	二	一	一	一	二	一二	一
二月	六八	一一	一	二	一	一	二	一二	一
三月	五七	一一	三	三	三	四	五	一四	一
四月	四四	一一	四	四	五	六	九	一四	三
五月	二七	九	七	一〇	七	一〇	一三	一二	四
六月	八	五	一二	二五	二〇	一五	九	五	二
七月	八	七	一四	一九	一五	一三	一一	九	三
八月	一〇	六	一四	二一	一二	一三	一一	一〇	四
九月	二三	一一	一四	一一	六	六	一一	一三	四
十月	四三	一三	五	四	二	三	八	一八	五
十一月	六一	一二	二	一	一	一	三	一六	三
十二月	七三	一〇	一	一	〇	〇	二	一二	一
年	四一	一〇	六	八	六	六	七	一二	三

(19) 臺東に於ける風向百分率

	N	NE	E	SE	S	SW	W	NW	無風
一月	三六	二六	四	一	一	一	一	二九	〇
二月	三三	二六	四	二	二	一	二	三〇	〇
三月	二九	二五	五	四	五	二	三	二六	〇
四月	二三	二三	七	六	七	三	四	二六	一
五月	二二	二三	九	五	八	三	五	二五	一
六月	一三	一五	八	七	一五	一〇	八	二三	一
七月	一二	一六	一〇	八	一四	九	九	二二	一
八月	一四	一六	九	八	一二	七	七	二五	一
九月	二一	二四	九	五	五	四	四	二七	一
十月	三二	三一	七	二	二	一	二	二三	〇
十一月	三九	三二	三	一	〇	〇	一	二三	〇
十二月	三五	三一	六	一	一	一	〇	二六	〇
年	二六	二四	七	四	六	三	四	二五	一

(20) 恒春に於ける風向百分率

	N	NE	E	SE	S	SW	W	NW	無風
一月	一六	五五	一七	二	一	一	一	五	二
二月	一六	五一	一七	三	一	一	二	七	三
三月	一二	四一	二二	六	三	二	三	八	三
四月	一〇	三一	二七	八	三	二	四	一〇	四
五月	一二	二二	二一	七	四	三	九	一六	七
六月	八	七	一七	一〇	六	五	二一	二〇	六
七月	八	九	二三	一三	六	六	一三	一七	六
八月	九	一三	一八	一〇	七	七	一四	一六	六
九月	一二	二九	二七	七	四	二	四	七	七
十月	一三	五六	二〇	三	一	一	一	三	三
十一月	一二	六八	一三	一	〇	〇	一	二	二
十二月	一二	七〇	一二	一	〇	〇	一	三	二
年	一二	三八	一九	六	三	三	六	一〇	四

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

(21) 澎湖島に於ける風向百分率

	N	NE	E	SE	S	SW	W	NW	無風
一月	二八	六七	一	〇	一	一	〇	一	〇
二月	三〇	六五	二	一	一	一	〇	一	〇
三月	二四	六〇	二	一	四	四	二	二	一
四月	二四	四九	三	三	八	六	三	三	一
五月	二四	三五	三	二	一五	一二	五	四	一
六月	九	一五	二	七	三七	二二	四	二	一
七月	一二	七	二	七	三一	二五	八	七	一
八月	一四	九	二	八	三三	二四	一一	八	一
九月	三〇	三七	二	三	八	六	六	六	一
十月	三一	六一	一	一	二	一	一	二	〇
十一月	三四	六四	〇	〇	〇	〇	〇	一	〇
十二月	三一	六七	〇	〇	〇	〇	〇	一	〇
年	二四	四四	二	三	一一	九	四	三	一

(22) 強風日數（毎秒10—15米）

	臺北	基隆	臺中	花蓮港	臺南	臺東	恒春	澎湖島
一月	九・九	九・二	五・四	八・三	七・一	一一・二	九・四	七・〇
二月	八・九	八・三	四・六	六・〇	八・二	九・八	九・二	六・九
三月	一二・二	八・五	二・八	八・〇	七・五	八・八	八・〇	九・一
四月	九・二	五・五	一・二	六・〇	四・〇	六・四	七・九	九・九
五月	六・九	四・一	〇・八	二・七	二・二	四・七	七・八	一〇・六
六月	五・一	三・五	一・〇	四・〇	二・六	四・三	五・一	九・一
七月	五・五	三・六	一・二	一・〇	二・八	三・一	五・〇	六・四
八月	五・九	三・四	一・四	二・七	二・四	二・八	四・〇	六・一
九月	七・二	三・三	二・二	五・七	二・三	四・九	四・二	九・〇
十月	一三・一	六・九	二・四	七・七	二・一	一〇・五	八・二	八・二
十一月	一二・九	九・〇	三・八	七・七	三・九	一一・五	八・九	六・一
十二月	一〇・八	一〇・一	四・九	一〇・三	五・五	一四・〇	八・九	六・六
年	一〇七・六	七五・四	三一・七	七〇・一	五〇・六	九一・八	八六・六	九五・〇

(23) 烈風日數（毎秒15—29米）

	臺北	基隆	臺中	花蓮港	臺南	臺東	恒春	澎湖島
一月	〇・二	三・六	〇・一	三・〇	〇・四	一・九	八・五	一九・六
二月	〇・二	三・七	〇・四	一・七	〇・五	二・二	七・一	一七・六
三月	〇・六	三・一	〇・三	一・〇	〇・四	二・〇	六・四	一四・一
四月	〇・六	一・六	—	〇・三	〇・一	一・二	三・〇	八・六
五月	〇・二	一・一	〇・一	—	〇・一	一・一	一・七	四・〇
六月	〇・四	一・五	〇・一	—	〇・五	一・九	〇・八	二・〇
七月	〇・九	一・一	〇・二	〇・三	〇・八	一・七	一・五	二・四
八月	一・六	一・九	〇・八	〇・三	一・五	二・一	二・〇	三・五
九月	一・〇	二・九	〇・四	一・七	〇・五	一・五	二・七	七・七
十月	〇・九	二・一	〇・三	一・三	〇・七	二・八	六・二	一七・四
十一月	〇・四	二・六	〇・三	三・三	〇・五	三・五	一〇・九	二〇・六
十二月	—	三・〇	〇・三	五・〇	〇・三	一・八	一二・九	二一・五
年	七・〇	二八・二	三・三	一七・九	六・三	二三・七	六三・七	一三九・〇

(24) 颶風日數（毎秒29米以上）

	臺北	基隆	臺中	花蓮港	臺南	臺東	恒春	澎湖島
一月	—	—	—	—	—	—	—	〇・一
二月	—	—	—	—	—	—	—	〇・一
三月	—	—	—	—	—	—	—	〇・一
四月	—	—	—	—	—	—	—	—
五月	—	—	—	—	—	—	〇・一	—
六月	—	〇・一	—	—	〇・一	—	〇・一	〇・一
七月	—	—	—	—	—	—	—	〇・一
八月	〇・六	〇・五	—	—	〇・一	〇・三	〇・二	〇・八
九月	〇・二	〇・四	〇・一	〇・三	〇・一	—	〇・一	〇・四
十月	〇・一	〇・一	—	—	—	〇・二	〇・一	一・一
十一月	—	〇・一	—	—	—	—	〇・三	〇・八
十二月	—	〇・一	—	—	—	—	〇・四	〇・五
年	〇・九	一・三	〇・一	〇・三	〇・三	一・五	一・三	四・一

(25) 平均降雨量（粍）

	臺北	基隆	臺中	花蓮港	臺南	臺東	恒春	澎湖島
一月	一〇二・二	三八四・〇	四五・六	七〇・四	三三・二	四〇・五	二三・八	二六・六
二月	一三六・四	二八九・七	六五・一	七〇・五	三七・九	三二・〇	二八・九	三三・八
三月	一七七・六	三四四・二	九二・一	八五・八	三七・三	五八・七	二五・一	六三・九
四月	一三八・四	二〇〇・三	一〇七・七	一一一・九	五一・一	六三・六	四八・四	七〇・二
五月	二一三・四	二七三・二	二四〇・三	一六四・九	一五六・〇	一八三・五	一七九・三	一一二・九
六月	二五八・八	二四七・一	三八〇・八	一七四・三	三九七・〇	二四四・九	四二五・九	一七五・七
七月	二〇五・八	一三八・四	二九四・七	一八二・一	三六二・七	二四七・九	四一七・〇	一六〇・三
八月	三二一・六	二二七・八	三六二・三	二〇三・二	四二六・六	三四一・九	五六〇・〇	一九四・〇
九月	二六三・六	三〇二・三	一六四・八	二八九・八	一三三・六	二八五・五	二六三・九	一〇一・九
十月	一〇八・三	三一一・四	一五・六	二五〇・八	三五・〇	一八一・〇	一五六・六	三二・四
十一月	七五・〇	三九三・七	一四・六	八一・四	一八・四	四六・七	四四・六	二一・八
十二月	八五・九	三九一・四	二二・〇	七九・九	一一・八	三八・五	一七・四	一九・九
年	二〇八七・〇	三四九三・五	一八〇三・六	一七六九・〇	一七〇〇・六	一七六九・七	二一八九・九	一〇一三・四

(26) 最高降雨量（粍）

	臺北	基隆	臺中	花蓮港	臺南	臺東	恒春	澎湖島
一月	五〇・〇	九九・四	八九・〇	六四・五	一〇一・一	二九・一	二五・〇	四四・〇
二月	五五・五	六九・一	五五・七	六一・八	一〇〇・〇	二六・九	九四・八	五三・二
三月	七〇・〇	九五・三	六一・四	五九・六	八六・九	五四・三	一一一・六	五六・五
四月	一一〇・七	一一一・九	一三一・二	一五四・二	一〇二・八	八七・五	一一一・八	五五・七
五月	一五七・八	二六五・四	一四三・〇	一二三・五	一六七・〇	一六六・九	三八〇・二	一七四・二
六月	一九九・二	一六〇・三	二八四・九	一五八・九	二三八・一	二七五・一	二七〇・九	一五七・七
七月	一五六・四	一七三・四	三〇五・三	一四〇・〇	二四六・四	二四八・六	三五五・七	二八八・〇
八月	二八七・三	一七一・八	四一一・六	一三一・五	三八四・九	四一四・四	三九五・五	三〇三・六
九月	二〇九・〇	三四〇・〇	二九二・〇	二五〇・九	二二〇・三	二一三・六	二一二・三	三四三・八
十月	九九・五	一七九・三	二一・二	三四三・四	五二・六	一七一・七	二二八・三	一〇九・八
十一月	五七・二	一七三・一	三八・七	一二九・〇	三七・三	一一二・一	八五・二	二九・三
十二月	七九・三	一八〇・〇	三一・八	九八・二	三一・一	九九・二	三四・一	五八・二
年	二八七・三	三四〇・〇	四一一・六	三四三・四	三八四・九	四一四・四	三九五・五	三四三・八

(27) 降雨日數

	臺北	基隆	臺中	花蓮港	臺南	臺東	恒春	澎湖島
一月	一七・五	二三・六	八・九	一一・八	六・一	一二・五	九・〇	六・六
二月	一六・二	二〇・八	九・二	一二・八	四・八	九・三	七・一	七・一
三月	一七・〇	二三・一	一二・二	一四・九	六・〇	一二・八	七・四	九・六
四月	一五・〇	一八・八	九・九	一四・八	七・四	一四・七	七・八	八・四
五月	一五・六	一八・六	一二・四	一八・二	一〇・〇	一九・三	一二・四	九・八
六月	一四・八	一五・〇	一六・九	一一・六	一六・一	一二・七	一七・八	一一・八
七月	一三・五	九・九	一五・二	九・九	一六・五	一三・二	二一・七	九・四
八月	一五・七	一四・四	一八・一	一〇・〇	一八・五	一四・八	二二・二	一〇・四
九月	一四・一	一五・六	八・六	一二・一	一〇・二	一五・三	一七・九	六・五
十月	一四・五	一九・七	三・五	一二・五	四・五	一三・七	一三・五	四・一
十一月	一六・三	二二・二	四・九	一一・八	三・六	九・六	九・八	四・八
十二月	一六・五	二三・〇	六・二	一〇・八	四・一	九・二	八・二	五・五
年	一八七・六	二二四・七	一三六・〇	一五一・二	一〇七・七	一五七・一	一五四・八	九四・〇

(28) 快晴日數

	臺北	基隆	臺中	花蓮港	臺南	臺東	恒春	澎湖島
一月	一・五	一・一	五・一	—	四・九	〇・七	四・一	二・一
二月	一・三	一・一	四・四	〇・三	四・六	〇・二	三・五	二・三
三月	一・二	〇・八	二・五	〇・三	四・〇	〇・八	二・八	一・九
四月	〇・八	〇・六	一・七	—	四・一	〇・五	三・五	二・一
五月	一・六	一・六	二・七	〇・三	四・五	〇・八	一・六	三・六
六月	一・四	一・九	一・六	一・七	二・二	三・二	三・一	三・二
七月	三・二	五・二	一・三	二・〇	一・三	四・四	一・六	四・一
八月	二・八	四・六	一・四	三・〇	一・六	三・二	一・九	三・九
九月	五・八	四・一	四・六	〇・七	三・一	二・九	二・五	五・四
十月	四・二	一・八	八・八	〇・七	七・〇	一・七	三・五	五・八
十一月	二・四	一・四	七・八	〇・七	七・〇	〇・九	三・四	二・九
十二月	二・二	一・二	七・四	〇・三	七・一	〇・八	三・三	一・九
年	二八・四	二五・四	四九・三	一〇・〇	五一・六	二〇・一	三三・八	三九・二

(29) 曇天日數

	臺北	基隆	臺中	花蓮港	臺南	臺東	恒春	澎湖島
一月	一九・七	二二・六	九・九	二三・三	七・九	一七・〇	七・五	二〇・三
二月	一九・四	二二・六	一一・四	一八・七	七・五	一七・五	六・四	一六・八
三月	二〇・五	二三・九	一三・九	二二・〇	八・八	二〇・一	六・八	一九・五
四月	一七・六	一九・八	一二・一	一七・七	七・一	一五・三	六・四	一三・五
五月	一五・五	一七・九	一二・六	二一・三	九・二	一六・二	九・三	一二・三
六月	一四・六	一四・四	一三・〇	一三・三	一一・五	一〇・〇	一一・三	一一・九
七月	七・五	八・六	八・八	八・〇	七・六	八・七	一〇・四	六・七
八月	八・九	九・一	一〇・五	一〇・〇	一〇・二	九・六	一二・五	七・九
九月	八・九	一一・六	五・〇	一三・〇	六・二	一〇・三	八・一	六・八
十月	一四・二	一八・六	六・二	一七・〇	五・九	一三・五	八・〇	九・四
十一月	一七・九	二二・九	七・六	一八・三	六・八	一四・八	八・九	一三・九
十二月	一九・〇	二三・四	七・九	二五・〇	七・八	一八・四	九・三	一七・二
年	一八三・七	二一五・四	一一八・九	二〇七・六	九六・五	一七一・四	一〇四・九	一五六・二

(30) 平均日照時數

	臺北	基隆	臺中	花蓮港	臺南	臺東	恒春	澎湖島
一月	八七・三	六六・五	一七六・七	七一・九	一九一・八	一二〇・九	一七〇・八	一〇六・一
二月	七一・五	四九・四	一五七・二	七二・七	一八四・〇	一〇二・一	一六五・六	一二三・二
三月	八六・六	六六・九	一六二・七	八二・五	二〇〇・八	一二二・一	一九五・一	一一九・二
四月	一〇五・四	九九・五	一七九・二	一五二・七	二一五・〇	一四八・九	二一五・〇	一六五・七
五月	一四一・〇	一五七・六	二〇二・一	一一九・九	二二八・一	一五六・九	二一一・七	一九九・一
六月	一七〇・〇	一九九・三	二〇二・五	二〇四・六	二三五・一	二三四・一	二一三・九	二三七・〇
七月	二二九・五	二六八・〇	二四七・二	二四七・七	二四五・五	二五四・二	二二九・〇	二九四・六
八月	二〇九・六	二四九・五	二三四・二	二一一・六	二二二・六	二三四・三	一九一・三	二七〇・〇
九月	一九二・六	二〇三・一	二四六・四	一七八・六	二四三・〇	一九六・五	一九九・二	二四四・二
十月	一四四・六	一二〇・四	二四四・四	一三一・二	二四四・七	一六七・七	一九八・五	二三一・七
十一月	九四・九	六六・一	一九八・五	九八・七	二〇七・三	一三一・七	一六四・九	一六〇・六
十二月	八九・九	六一・〇	一八六・七	六二・二	一九七・一	一一六・九	一五五・七	一三一・〇
年	一六二二・九	一五八六・五	二四二八・八	一六〇四・一	二六〇五・〇	一九六六・五	二三〇六・七	二二七二・四

(31) 日照時百分率

	臺北	基隆	臺中	花蓮港	臺南	臺東	恒春	澎湖島
一月	二六	二〇	五三	二一	五七	三六	五〇	三二
二月	二三	一六	四九	二三	五七	三二	五一	三五
三月	二三	一八	四四	二二	五四	三〇	五二	三二
四月	二八	二六	三七	三五	五七	三九	五七	四四
五月	三四	三三	四九	二九	五六	三八	五二	四八
六月	四二	四九	五〇	五〇	五六	五八	五三	五八
七月	五五	六三	五九	五九	五九	六一	五六	七一
八月	五二	六二	五七	五三	五六	五七	四八	六八
九月	五二	五五	六七	四九	六六	五三	五四	六七
十月	四〇	三四	六八	三四	六八	四七	五五	六五
十一月	二九	二〇	六一	三〇	六三	四〇	五〇	四九
十二月	二七	一九	五七	一九	五九	三五	四七	四〇
年	三七	三六	五五	三六	五九	四四	五二	五一

(32) 平均不照日數

	臺北	基隆	臺中	花蓮港	臺南	臺東	恒春	澎湖島
一月	一一・二	一七・八	二・七	一一・七	一・四	四・一	一・四	七・九
二月	一一・四	一九・一	三・六	一〇・〇	一・六	五・六	一・四	八・一
三月	一二・一	一八・五	三・六	一三・三	一・九	六・七	一・四	七・六
四月	八・一	一二・八	二・八	六・三	一・九	四・五	〇・七	四・九
五月	六・六	一〇・二	三・四	八・三	二・四	五・六	一・八	三・八
六月	三・七	五・三	三・四	二・三	二・九	二・七	三・三	二・九
七月	一・六	三・一	一・四	二・三	二・二	二・三	三・一	二・二
八月	二・九	二・八	二・二	二・三	三・二	三・五	四・二	一・一
九月	三・六	四・五	〇・九	三・〇	一・〇	二・六	一・八	一・六
十月	五・六	一〇・九	一・一	六・〇	一・一	二・七	二・二	一・八
十一月	九・六	一六・八	一・八	八・三	一・八	三・七	二・六	三・六
十二月	一〇・七	一八・八	一・九	一三・〇	一・五	五・八	二・八	六・六
年	八七・〇	一四〇・六	二八・六	八六・八	二三・九	四九・八	二六・七	五二・一

(33) 平均蒸發量（粍）

月	臺北	基隆	臺中	花蓮港	臺南	臺東	恒春	澎湖島
一月	六七・三	九三・五	八八・八	—	一〇四・四	一三八・二	一四九・六	一〇七・〇
二月	六三・〇	六〇・〇	八七・四	—	一一一・四	一三〇・八	一四六・九	一〇四・五
三月	八二・四	六五・八	九七・七	—	一三八・四	一三五・七	一八〇・九	一一八・一
四月	一〇七・四	九五・九	一三一・三	—	一六五・八	一四八・五	一九六・二	一四二・五
五月	一四〇・四	一三〇・四	一四〇・一	—	一七一・七	一四九・八	一九四・九	一六六・六
六月	一六一・四	一八二・二	一五二・九	—	一六四・九	一七二・五	一七三・七	一七六・一
七月	二〇一・七	二三三・七	一六九・三	—	一七〇・三	一八四・七	一六八・八	一九三・〇
八月	一八一・四	二一八・三	一五六・四	—	一五六・七	一七三・四	一四八・六	一九二・二
九月	一五六・〇	一八一・七	一四〇・一	—	一五七・一	一六〇・四	一五六・二	一八四・六
十月	一二五・二	一三一・一	一三七・九	—	一四二・七	一五四・一	一七五・六	二〇六・四
十一月	八六・二	八六・九	一〇九・二	—	一二〇・七	一三九・九	一六八・四	一六〇・一
十二月	七一・三	六九・〇	九三・二	—	一〇四・二	一三〇・八	一六〇・三	一三六・八
年	一四四四・八	一五二〇・五	一四九四・三	—	一七一八・三	一七九八・八	二〇二〇・一	一八七七・七

(34) 最高蒸發量（粍）

月	臺北	基隆	臺中	花蓮港	臺南	臺東	恒春	澎湖島
一月	六・三	六・〇	六・〇	—	六・〇	八・〇	八・九	八・〇
二月	八・五	九・七	七・六	—	六・八	八・〇	九・一	七・八
三月	七・八	一〇・三	七・〇	—	七・九	一〇・四	一一・七	八・四
四月	九・〇	一一・五	七・七	—	九・五	一五・三	一〇・八	九・〇
五月	一〇・九	一一・六	八・三	—	九・二	九・四	一二・一	九・五
六月	一四・二	一三・六	九・〇	—	一一・五	一一・六	一〇・〇	一一・二
七月	一六・二	一七・一	九・三	—	九・六	九・六	九・九	一〇・四
八月	一三・八	一四・九	八・五	—	八・五	一一・五	九・二	九・二
九月	一〇・九	一五・五	九・一	—	八・二	一〇・四	九・五	一一・二
十月	八・二	一一・〇	七・四	—	八・八	一〇・〇	一一・一	一二・八
十一月	七・九	一〇・〇	七・〇	—	六・三	一一・四	一一・二	一一・〇
十二月	六・四	六・三	五・八	—	五・五	七・二	九・八	八・〇
年	一六・二	一七・一	九・三	—	一一・五	一五・三	一二・一	一二・八

(35) 濃霧日數

月	臺北	基隆	臺中	花蓮港	臺南	臺東	恒春	澎湖島
一月	一・七	〇・九	二・六	—	二・二	—	—	〇・四
二月	一・五	〇・六	一・九	—	一・一	—	—	〇・二
三月	二・一	一・八	一・四	—	一・一	—	—	〇・六
四月	〇・八	一・六	〇・八	—	〇・四	—	—	〇・九
五月	〇・六	〇・四	〇・四	—	〇・一	—	—	〇・二
六月	〇・七	〇・一	—	—	〇・一	—	—	〇・二
七月	〇・五	—	〇・一	—	〇・一	—	—	〇・一
八月	〇・五	—	—	—	—	—	—	〇・一
九月	〇・二	—	—	—	〇・一	—	—	—
十月	〇・六	〇・二	〇・九	—	〇・六	—	—	—
十一月	一・二	〇・四	〇・六	—	〇・四	—	—	—
十二月	一・二	〇・四	一・四	—	〇・七	—	—	〇・一
年	一一・六	六・四	一〇・一	—	六・九	—	—	二・八

(36) 降霜日數

月	臺北	基隆	臺中	花蓮港	臺南	臺東	恒春	澎湖島
一月	〇・一	—	〇・一	—	〇・一	—	—	—
二月	〇・六	—	〇・五	—	—	—	—	—
三月	〇・一	—	—	—	—	—	—	—
四月	—	—	—	—	—	—	—	—
五月	—	—	—	—	—	—	—	—
六月	—	—	—	—	—	—	—	—
七月	—	—	—	—	—	—	—	—
八月	—	—	—	—	—	—	—	—
九月	—	—	—	—	—	—	—	—
十月	—	—	—	—	—	—	—	—
十一月	—	—	—	—	—	—	—	—
十二月	〇・三	—	—	—	—	—	—	—
年	一・一	—	〇・六	—	〇・一	—	—	—

臺灣と熱帶各地との氣象比較表

1 各月平均氣温比較表（攝氏）

月＼地名	臺灣 臺北	臺灣 臺南	比律賓 マニラ	比律賓 イロイロ	比律賓 スリガオ	瓜哇 ボイテンゾルグ	印度 カルカッタ	印度 パトナ	布哇 ヒロ	布哇 ホノルル	墨國 メリダ
一月	一五・五	一四・四	二五・〇	二五・五	二五・七	二五・六	一八・二	一六・一	二一・〇	二一・二	二三・五
二月	一四・四	一六・五	二五・三	二五・六	二五・六	二五・五	二一・五	一八・九	二〇・六	二一・六	二三・三
三月	一六・九	一九・七	二六・八	二六・六	二六・〇	二六・〇	二六・一	二五・一	二〇・九	二一・一	二五・八
四月	二〇・六	二三・四	二八・三	二七・九	二六・八	二六・六	二九・一	三〇・二	二一・五	二二・五	二六・九
五月	二四・〇	二六・〇	二八・六	二七・九	二七・四	二六・六	二九・二	三一・一	二二・五	二三・四	二八・七
六月	二六・六	二七・二	二八・〇	二七・一	二七・六	二六・六	二九・一	三一・〇	二三・〇	二四・五	二七・九
七月	二八・〇	二七・七	二七・二	二六・五	二七・四	二六・三	二八・二	二九・〇	二三・四	二五・〇	二七・五
八月	二七・七	二七・四	二七・一	二六・六	二七・四	二六・三	二八・〇	二八・九	二三・五	二五・二	二七・五
九月	二六・二	二七・一	二七・〇	二六・三	二七・三	二六・三	二八・〇	二八・九	二三・三	二五・二	二六・九
十月	二三・〇	二四・八	二六・九	二六・五	二七・二	二六・四	二七・一	二六・五	二三・一	二四・八	二五・八
十一月	一九・六	二一・四	二六・〇	二六・一	二六・四	二五・八	二二・五	二一・一	二二・八	二三・四	二四・三
十二月	一六・七	一八・三	二五・二	二五・八	二五・七	二五・七	一八・一	一七・〇	二一・三	二二・五	二二・四
平均	二一・六	二三・一	二六・八	二六・五	二六・七	二六・一	二五・八	二五・二	二二・四	二三・三	二五・八

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

地名＼月別		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
臺灣	臺北	一〇二・二	一二六・四	一七七・六	一二八・四	二一三・四	二五八・八	二〇五・八	三二一・六	二六三・六	一〇八・三	七五・〇	八五・九	二,〇六七・〇
臺灣	臺南	三三・二	三七・九	三七・三	五一・一	一五六・〇	三九七・〇	三六二・七	四二六・六	一三三・六	三五・〇	一八・四	一一・八	一,七〇〇・六
比律賓	マニラ	二八・〇	一〇・一	一七・三	三一・〇	一〇三・一	二四九・二	三八八・八	三五〇・〇	三六八・六	一九〇・五	一三一・六	五八・三	一,九二六・五
比律賓	イロイロ	五〇・〇	二七・七	二五・九	五一・〇	一七二・〇	二〇九・一	五四九・〇	三二七・八	二八〇・六	二六一・八	一二五・五	一一五・五	二,一八八・九
比律賓	スリガオ	二八九・九	二八〇・九	一八九・五	三〇五・七	一七六・七	五五・九	一四五・三	七七・四	一四五・八	二二二・〇	三三二・七	四一六・〇	二,六三七・八
瓜哇	ボイテンゾルグ	五二四・七	四三七・三	三五五・九	五二三・二	二八六・三	二三九・〇	三四七・三	二五六・九	三〇六・六	五一二・三	四四三・九	二七一・六	四,五〇五・〇
印度	カルカッタ	一一・二	二四・六	三三・三	六〇・二	一三九・二	二九八・九	三二九・二	三五四・一	二五二・〇	一三七・七	一五・二	八・一	一,六六三・七
印度	パトナ	一七・八	一三・二	八・九	七・九	四〇・六	一八九・九	二五〇・七	一九七・九	七一・四	五・六	三・三	一〇・七	八一七・九
布哇	ヒロ	一三五・三	二五三・九	三〇四・八	二一六・六	二〇六・二	一九三・五	二八九・八	四三〇・七	三七二・三	二五九・〇	三三一・七	三一二・四	三,三〇三・五
布哇	ホノルル	九二・五	六三・二	八〇・二	二三・三	一八・七	一四・二	二五・四	二九・七	二四・三	二〇・八	五八・一	一二二・四	五七三・二
墨國	メリダ	二二・〇	一六・九	一四・四	一八・六	四七・六	一四〇・二	一二二・五	二二二・一	一一一・六	七六・二	四八・五	三四・二	八〇七・二

備考

前表地名の位置大略次の如し

地名	緯度（N は北緯 S は南緯）	經度（E は東經 W は西經）
臺北	N. 25°	E. 122°
臺南	N. 22°	E. 121°
マニラ	N. 15°	E. 121°.25'
イロイロ	N. 11°.25'	E. 123°
スリガオ	N. 10°	E. 126°
ボイテンゾルグ	S. 6°.35'	E, 106°.49'

地名	緯度（N は北緯 S は南緯）	經度（E は東經 W は西經）
カルカッタ	N. 22°.33'	E. 88°.21'
パトナ	N. 25°.37'	E. 85°.14'
ヒロ	N. 20°	W. 158°
ホノルル	N. 21°	W. 159°
メリダ	N. 20°	W. 89°

本文に引照せる氣象材料は主として臺灣總督府臺北測候所報告に基くものにして、尙同所長技師近藤久次郎氏は全記述に亘り懇篤なる助言と校閲とを與へられたり。玆に附記して感謝の意を表す。

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

臺灣省農業試驗所
圖書室
應用動物系

Taiwan
053

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895